

領 収 書

金子保利様

¥ 1,000-

ただし、両毛六市議会議長会議員研修会負担金として
上記金額を領収いたしました。

令和7年1月23日

両毛六市議会議長会会長
佐野市議会議長 川 嶋 嘉 一



研 修 金 子 保 利 議 員

研修:「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍」

日時: 令和7年3月26日(水)

場所: 都ホテル四日市 4階「伊勢の間」 三重県四日市市安島1-3-38

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～名古屋駅	鉄道	往復	946.4	15,400	8,360			23,760
名古屋駅～近鉄四日市駅	鉄道	往復	73.8	1,520				1,520
								0
								0
								0
								0
								0
								0
								0
計				16,920	8,360	0	0	25,280

宿泊料@16,500×0泊

0 円

交通費

25,280 円

(うち航空運賃)

0 円)

計

25,280 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 岩上 裕一

視察研修報告書

第09回全国自治体議会改革推進シンポジウム(三重県四日市)

金子 保利

1. 研修日時 : 令和7年3月26日(水) 午後1時00分～午後4時45分
2. 研修会場 : シンポジウム 都ホテル四日市4階「伊勢の間」
交流会 午後5時～6時30分都ホテル四日市 3 階「鈴鹿の間」(欠席)
3. 主 催 : 三重県議会
企画・実施 三重県議会議会改革推進会議
後 援 全国都道府県議長会 全国市議会議長会 全国町村議会議長会
三重県市議会議長会 三重県町村議会議長会
4. 基調講演
テーマ「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍」
基調講演「演題多様な意見を反映する議会へ」
講師:大山 礼子(駒澤大学名誉教授)

パネリスト

- *奥 野 詠 子 (富山県議会議員)
- *辻 弘 之 (登別市議会議長)
- *辻 裕 登 (四日市市議会議員)
- *吉 田 利 子 (岩手県議会議員)
- *稲 垣 昭 義 (三重県議会議員)



◆大山 礼子 (駒澤大学名誉教授)

- ・多様な意見を反映する議会へ変革しなければならない。
- ・議会への不信・・・現在の地方議会の現状は、一般常識では考えられない議員の不祥事が多すぎることである。2点目は、定数削減手当の引き下げのような後ろ向きの提案が多く改革の論点からかけ離れている。3点目は、偏った議員構成は、住民から議会をとうざける要因である。今後は、女性の進出を如何に図っていくか喫緊の課題である。
- ・なり手不足・・・近年、無投票当選が増加傾向にあります。今後ますます議会は住民に程遠い存在になってしまう。2点目は、立候補しようとする人がいなくなることが懸念され、議会自体の在り方が問われることになってくるでしょう？
- ・議会はなぜ信頼されないのか・・・①自分たちの代表であるとは思えない。遠い存在である。
- ②住民の意見が反映反映されていない。政策決定である。③議会は、何をやっているのか、見えない。

多様な人材を議会に送るには発想を転換し、制度を変えていく必要がある。

1. 被選挙権の引き下げ。
2. 議員休職制度の創設。
3. 立候補制限の緩和。
4. 供託金の廃止。引き下げ。
5. 居住要件の弾力化等の改革に取り組むことであります。

議会への関心を高めるには？

- ・住民の声を市政に反映させるとともに議会の活動を分かりやすく伝えることは重要であります。
- ・議会は、地域社会の中学生・高校生の見学・傍聴地域社会との連携を図り議会を理解してもらう活動を行うことが肝要であります。

奥野 詠子 富山県議会 議員

- ・富山県の人口 993,848人 県議定数 40人
- ・県と15市町村議会における女性の割合 33/301人 約11%
- ・県と15市町村の首長における女性の割合 0/16人 ゼロ 今まで1人もいない
- ・国会議員に占める女性の割合 0/8人 ゼロ 今まで1人もいない
- ・政治分野ジェンダーギャップ指数 全国 45位

- ・多様な人材が輝く議会のための17の提言を行っている。

- ① 多様な方々に議会・議員への関心・意欲をもっていただくために
- ② 多様な人材が立候補しやすくなるために
- ③ 多様な人材が働きやすい議会にするために の取組

- ・各議会が取り組む際の指標になるように「知る」「踏み出す」「続ける」の3stepを意識して取り組め

政治への新しい入口を

人材発掘・育成

- ・自民党富山県連「富山政治学校」2014年4月開校
- ・自民党女性議員有志で運営する「富山女性政治塾」
2020年4月開校

登用

- ・自民党富山県連「女性議員の育成・登用プロジェクト」2024年発足
- ・自民党富山市連「女性議員候補者登用制度」創設 2015年2月

富山市では、女性が活躍する場をあらゆる社会から掘り起こし女性の活躍する場を確保しています。

吉田 敬子 岩手県議会 議員

岩手県議会における初めての妊娠出産子育て支援の取組について

- ・2010年7月県政初の女性議員（現在5期目）
- ・2018年3月 妊娠を公表（3期目7年目） 妊娠中の体調不良／誹謗中傷発生
- ・2018年5月 長男出産（40歳） 岩手県議会規則に産休機関の明記が無いため、労働基準法に倣って産休取得

◆妊娠・出産で大変だったこと

- ・会派控室を2階から1階へ変更した。
- ・議会等に女性用休憩スペースがない、保育スペースがない、
- ・完全母乳 トイレで搾乳
- ・定例会中／自宅でネット中継（オンライン中継が無かった）

◆出産育児関連 規則改正による議会改革

- ・2019年8月 議員の欠席理由の改正。一般の欠席理由の他に「育児、看護、介護、葬儀、配偶者の出産補助その他やむを得ない事由」追加された
- ・2021年3月 産休期間を明記された
- ・傍聴規則の改正 原則中学生以上となっていた年齢制限を撤廃。乳幼児や小学生も可
- ・傍聴環境の整備 簡易ベビーベッド、パーティション用の配置
- ・2025年9月 オンライン委員会創設（本会議は未）

*議会内における出産・育児等の環境整備を各議会は早急に整備すべきと思います。

辻 弘之 登別市議会 議長

- ・多様性が議会とまちを強くする。・・・女性、若手政治未経験者、サラリーマンから事業者まで多様なバックグラウンドを持つ議員が個性を爆発させて活動できる議会。
- ・多世代による市民参加・・・こうっ礼者がほとんどを占める意見交換会、チラシ配りをしたり、突然、地元の中学生在が見学に来てくれたり、意見交換会の内容、町の課題に対する気づきが大きく広がることになる。
- ・成り手不足の要因・・・45%無関心、無理解 33%報酬の低さ。
- ・2023年統一地方選において、道内5市48町村が無投票。このうち11町村で定数割れ。町村議選の無投票と定数割れは過去最高である。 の基地別市議会選挙 → 無投票であった。

◆多様性で目指すもの・・・表層的な「女性のため」「若者のため」ではなく、住民自治を体現し、議事機関としての機能を高めること。

◆法令を含む社会システムを使いこなす技術者集団を養成すること。

◆地方議員がキャリアゴールではない。

*私は、多くの女性が議会に登壇できる環境を整えるべきと思います。

辻 裕登 四日市市議会 議員

◆会社員議員について

- ・2022年12月 選挙出馬の意思を固め、会社を辞める旨を上司に伝えた、「会社から出馬するから会社を辞める必要があるのかと問われる」
- ・2023年1月 部長・課長・人事課を交え話し合い。会社側から「出馬するから会社を辞めなければならないというルールはない → 会社を辞めるのではなく有休を活用し活動する。ことになり、選挙後に再度相談。
- ・2024年4月 四日市市議会議員選挙 初当選。その後、上司と再度相談し、会社から「そもそも副業を認めている。納期の短い仕事は無理でも長納期の仕事はあることを受け、勤務しながら市議会議員を行うことを決断した。

*四日市市議会議員の方は、とても恵まれた会社に勤められていたので、議員を続けられたと思います。一般社会の会社では、とても認めてもらえないと思います。このようなことで悩み苦しめないような議員が生活できる報酬を考えるべきだと思います。

*多様な方々に議会・議員への関心をもっていただくための取組

県議会の取組

- ・みえ県議会出现前講座 → 学校から申し込みを受け、児童、生徒、学生に向けて県議会の仕組みや取組について、議員が出むいて説明する。
- ・えみ高校生県議会 → 令和6年8月21日(水)みえ高校生県議会を開催。若者政治へお関



心を高めることを意識して、実施後のフィードバックの取組を強化する。

多様な人材が立候補しやすくするために

- ・経済団体への要請 → 正副議長が県内の4経済団体を訪問し要請。

要請内容 ①立候補に茂なう休暇制度の新設。②銀との公卿・兼業の容認

多様な人事が働きやすい議会にするために

- ・ハラスメント行為の禁止や事案発生時の対応等を定めた条例・

*ハラスメント防止研修を実施する・

女性議員ネットワークの形成

・正副議長と女性議員6で意見交換を行い市町議会議員も含めた女性議員ネットワーク形成を維新するための検討し、「和7年3月3日みえ女性ネットワーク」発足した。

*所感

令和7年3月26日(水)全国自治体改革推進シンポジウム三重県四日市市「都ホテル四日市4階「伊勢の間」」シンポジウム13:00~16:45 交流会17:00~18:30都ホテル四日市3階「鈴鹿の間」で行われ、「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍について」発表がなされました。

全国から264名が席されました。残念ながら女性の出席者の把握はされなかったとのこと。

パネリスト5人の方から議会改革や女性の活躍例等が示され、女性が活躍する世界が広がって来ることが感じれました。

我が国は、男女共同参画時代となっても女性の地位や社会的位置づけなど残念ながら改善されていないと思います。多くの議会では、女性に対する環境、設備など恵まれたものとは思えません。

特に妊娠・出産に対しての対応、設備が劣悪すぎであります。早急に対策を講じることが喫急の課題ではないでしょうか。

女性が本来の男女共同参画社会になるよう議会からしっかりと実現に向け取り組んでもらいたいと思います。

本市は令和7年4月13日の市議会議員選議において4名の女性議員が誕生いたしました。これからは定数の半分は女性議員になることを期待したいと思います。

